

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立吉田特別支援学校 P T A (駿遠分教室)	
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部
	全校児童・生徒数	178人(分教室 17 人)

1. 使用状況

寄贈物品名	トランポリン
使用学年及び人数	分教室児童生徒 17人
使用頻度	小学部:2学期に3回、中学部:2学期に5回
使用状況	小学部:自立活動 中学部:体育(器械運動)
物品の使用による 変化や効果	<p>【小学部】 自立活動の時間に、「環境の把握」、「身体の動き」の項目に焦点をあて、トランポリンを活用した学習を行った。児童は、平地でのジャンプより数倍跳ね上がる感覚を楽しんでいた。数回繰り返すことで、体のバランスを崩さずにジャンプしたり、高く跳んだりする姿が見られた。</p> <p>【中学部】 自分から身体を動かすことが少ない生徒が、自ら粗大運動に取り組むことができた。どの生徒も、マットとは違う反発の力を楽しみ、自然と笑顔あふれる時間を過ごすことができた。中心のバーを支えに、左右に跳んだり、開脚跳びをしたり、自分から技に挑戦する姿勢も見られた。</p>
今後の活用の 見通しや課題	<p>【小学部】 体のバランスをとる学習として、授業時間以外の休み時間等にも活用していきたい。</p> <p>【中学部】 中学部の生徒にとってバーの背丈が低く、跳躍をすると前傾になり少し危ない部分もあるため、調整しながら今後も体育の中で粗大運動や跳躍に取り入れていきたい。体育の授業の中で体作りを行ってほしいという目的は達成できた。</p>
その他 希望や所感など	<p>【小学部】 自分で跳躍することに課題がある児童でも、跳ぶという感覚を経験するきっかけとなった。</p> <p>【中学部】 自分から、積極的に運動に取り組むことが難しい生徒の自発性を引き出すことができた。</p>

2. 活用の様子

【小学部】 自立活動の授業で活用



- 地上でジャンプするよりも、高く軽やかにジャンプをすることができ、児童がとても嬉しそうでした。
- マットの反発を感じながら、ジャンプできました！
- 順番を決める際には、「僕が先!!」と、誰もが一番にやりたい気持ちを表していました。

【中学部】 体育の授業で活用

- マットの反発を利用して、高くジャンプすることができました。
- 「いつもより高くジャンプできる。」
「楽しいから、またやりたい!!」と生徒の笑顔があふれていました。

